

大学院進学ラジオ講座 第11回

「建国記念の日にちなんで」

-大学院風、頭で聞く音楽。国歌と国家と市民革命の背景を探りながら-

1. はじめに

みなさん今晚は、本日は大学院特別講座ということで、1月に続いて大学院レベルの教養講座「頭で聞く音楽」の2回目をお送りしたいと思います。この番組が放送されるのは2月7日ですが、その4日後の2月の11日は「建国記念の日」という祝日です。そこで、建国記念の日にちなんで特別講座を開講したいと思います。1月の特別講座につづいて「大学院風 頭で聞く音楽」として「世界の国歌」を特集してみたいと思います。世界の国歌というと、スポーツの国際大会で聞くくらいで、なかなかじっくりと聞いたり、その背景や国歌に関連する知識を学んだりするということはないと思います。

2. 『君が代』

君が代はスポーツの大会以外でも、入学式や卒業式などの式典でも演奏されて私たちのなじみの深い楽曲です。

「君が代」の歌詞は、千代に八千代に、さざれ石の、岩をとなりて、苔のむすまで」です。端的にいきますと、国が長く長く続きますようにという趣旨の内容が盛り込まれています。悠久のスケールと国の平和の願いが込められたいかにも日本らしい内容になっています。

3. 『アメリカ合衆国国歌』

アメリカの国歌は、ラジオをお聞きの皆さんも聞いたことがある人は多いと思います。勇ましいのはメロディーだけではありません。歌詞は、「おお、見えるだろうか、夜明けの淡い光の中。昨日の夕暮れに 我々が誇り高く叫んだも

の。危き戦いの中、城壁の上に 勇壮に翻(ひるがえ)る。太き縞に輝く星条旗を我々は目にした。」です。

これは、アメリカの独立のための第2次米英戦争の戦いをうたったものです。このように、アメリカの国歌は戦争の戦いの上で勝ち取った国の自由と独立が背景にある国歌となっているのです。だから勇ましい感じの中に、勝利をたたえる感じのメロディーとなっています。

4.. 『フランス国歌』

フランス国歌は「ラ・マルセイエーズ」です。これも、行進曲風でアメリカ国歌と似た感じがします。アメリカとフランスの国歌が似ている感じがするのは、実は国歌に込められている背景に共通点があるためかもしれません。

それを理解するために、また国歌の歌詞を見てみることにしましょう。

「行こう 祖国の子らよ 栄光の日が来た！我らに向かって 暴君の 血まみれの旗が 掲げられた。聞こえるか 戦場の 残忍な敵兵の咆哮(ほうこう)を？ 奴らは汝らの元に来て 汝らの子と妻の 喉を搔(か)き切る！」。

これも、アメリカと同じように戦いの歌ですが、でもこちらの方が歌詞が過激です。やはり市民の血によって自由を勝ち取ったフランス革命に基づいた国歌ということがわかると思います。さて、次にここでこのフランス国歌をイントロに使ったポップスを紹介しましょう。

5. ビートルズ 『All you need is love(愛こそはすべて)』

ここでこのフランス国歌をイントロに使ったポップスを紹介します。この歌はビートルズの『All you need is love(愛こそはすべて)』です。冒頭に、「ラ・マルセイエーズ」がながれ、後は「LOVE」の歌詞が続きます。

6. 『ロシア連邦の国歌』

ロシアの国歌ですか、あまり普段の生活では耳にすることはない国歌です。アメリカと並んで世界の超大国ですので、この機会に聞いてみましょう。やや

長めの国歌で、重厚な感じがしました。このロシア国歌の歌詞も重厚な意味がつけられています。

「ロシア、聖なる我らの国よ ロシア、愛しき我らの国よ。力強き意思、大いなる
光栄 汝が持てる物は世々(だいたい)にあり！讃えられて在れ、自由なる我
らが祖国よ 幾世の兄弟なる民族の結束よ。祖先より授かった民族の英知
よ！ 国よ讃えられて在れ！我等汝を誇らん！」。

ロシアの大地のように、とてもスケールが大きく、そして祖国を誇らしく歌い上げる感じですね。

7. チャイコフスキー『序曲1812年』(1880年作)

最後はこのロシアとフランスにも両方に関わる曲として、チャイコフスキーの「(大)序曲1812年」です。この曲は、ナポレオンが敗退したロシア遠征をモチーフに作曲された楽曲で、「ラ・マルセイエーズ」がロシア帝国国歌(当時)によって蹴散らされ、最後は大砲の音と、ロシア正教会の鐘の音で終わるとい
う壮大な構成になっています。

このように、国歌という音楽もその国家の歴史的な背景を学んだ上で聞くと、音楽ならぬ音「学」として楽しむこともできるのではないのでしょうか。